

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2970600447		
法人名	株式会社 サニーオーク		
事業所名	グループホーム エル		
所在地	奈良県桜井市上之宮9-1		
自己評価作成日	平成29年12月6日	評価結果市町村受理日	平成30年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成29年12月20日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域との関わりを大事にし、日々の散歩や幼稚園や小学校・地域の老人会との交流を行っています。地域の被災時の災害時の応援体制づくりを目標に毎日「炊きだし祭」を行い、地域の方々が入ってきやすい場になっていくようにしています。住み慣れた場所で安心して「人間としての尊厳を保その人らしく」最後まで暮らしの支援をすすめています。音楽療法を開設より依頼を続けており、お風呂も個浴と温泉浴とで気分転換を図りゆったりと過ごせるような生活支援をしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当事業所は市の中心部から少し離れた住宅地の一角にあります。館内は木材が多く使われ、温もりを感じると共に清潔感に溢れ、ホールも広く、穏やかに過ごせる共用空間が確保されています。従前から地域との関わりを大事にされており、地域に根ざした事業所を目指しながら自治会にも加入され、校区内の幼稚園や小中学校とのふれあいのほか、地元行事においても交流を図っておられます。また、日々のケアサービスにおいては、利用者の希望に沿った外出支援の積極的な取り組みや入浴支援の工夫もみられ、住み慣れた所でその人らしく安心して暮らせるように、一人ひとりの思いに寄り添ったケアの実践に努めておられます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域密着型とは」他のサービスとの違いをスタッフとともに考えている。特養との違いはなにか、どんなグループホームでのケアが必要かカンファの中で、考える機会を定期的に作り、地域との関わりやケア内容に評価をしている。	地域密着型の意義を踏まえた事業所の理念をケアサービスの実践にどのように活かしていくのか、常に考えながら取り組んでおられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のなかでの催しに積極的に参加している。毎回参加することで、地域との関係が密になり、根付いていると思う。近所の方から 野菜を頂いたり、日々散歩では挨拶することで地域の中に溶け込んでいくようにしている。小学校の訪問もある。	地域行事への積極的な参加や事業所への招待等、地域に根ざした事業所として、普段からの関わりやふれあいを大切にされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	炊きだし祭を行い地域、老人会の方々が入りやすい場を作っています。運営推進会議の場で、認知症についての説明・支援の方法などを話しています。小学校の交流として、昔の暮らしの学習の時のお年寄りの方との接し方等話しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し活動報告や入居者様の状況報告・認知症の変化等を話しています。家族様よりイベントの参加・草刈などの申し出がありボランティアしてもらっています。	2ヶ月に1回の運営推進会議では活動報告や利用者の状況、改善の取り組みについて報告し、出された意見等については検討しながらケアサービスの向上に活かしておられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の方や自治会の方々が運営推進会議にも参加して頂いています。支援のあり方や課題・情報交換・たよりの掲示をしたり地域の行事に参加しています。桜井市には事業所の報告をし連携をとっています。	市担当者とは常に事業所の状況等を伝えながら情報交換を行い、相談事項にも対応してもらい協力関係が構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は致しません。身体拘束について勉強会を行い委員会でも職員が監視するようにしています。安易に拘束をしない方法でケアをしています。できるだけドアの開錠を行っています。	委員会や勉強会を通してすべての職員が身体拘束の弊害を理解し、利用者の支援に活かされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで勉強会を開き、虐待防止について話し合いをして徹底しています。身体だけでなく言葉の虐待についても細かく言葉の内容・事例をあげて(資料等)勉強し、スタッフが認識をもてる様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフカンファレンスで成年後見制度の勉強会をして、スタッフ全員に認識をもってもらっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族様と時間をとって、読み合わせをして納得のうえ契約をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会話や関わりの中で入居者様の要望や不満はすぐに管理者に伝え、気づきノートに書き情報を共有し対応しています。苦情届を活用しその都度改善方法を家族様に報告しスタッフ全員が対応出来るようにしています。	利用者との会話や家族の面会時のほか、運営推進協議会でも意見や要望などを聞く機会を設け、運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は法人の全体会議の場でスタッフに直接話を聞かれています。事業所では毎月のカンファレンスでスタッフの意見が言えるような場になっています。	毎月のカンファレンスや年2回の個別面談の中で職員の思いや意見・提案を聞くようにされ、聴取した事項等については運営に反映するよう努めておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とスタッフは人事評価を年に2回しています。個別面談をして職員の思いを聞いています。管理者会議を月1回開催しそこで現場環境や改善策を話し合い、質の向上に努める為の話し合いを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体の勉強会毎月開催しています。研修に対する調整等しています。事業所としても月1回の勉強会を職員持ち回りでしており職員が学び合う機会を持っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	桜井市地域密着型サービス部会が2カ月に1回会場を持ち回りであり参加しています。同業者の方と意見の交換会や普段の業務の中で困った事への対応の仕方など話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前に在宅訪問して早急な受け入れが必要なら優先に入居して頂ける様努めています。施設に訪問したりもします。体験で泊まって頂いて安心して入居して頂けるようにも努めセンター方式のアセスメントを事前に記入してもらっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談に来られると十分にお話を聞いています。事業所はグループホームである事や理念や体制などお話して理解して頂いてます。今すぐ必要なサービス状況により相談・支援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られる方の中で在宅で生活可能な方に関しては小規模多機能などを勧め、認知症の相談でグループホームに入居できない場合は地域包括の方や居宅支援との連携を図り早急な対応相談を勧めめています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	旬の野菜を使った料理の仕方を教えてもらったり、また季節の花の名前を教えてもらい話題作りをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎週1回、食事時に来所され食事の様子を見られ、おやつも持ってきてくださり、家族様と本人様がゆったり安心して時間を過ごされています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な方や近所の方が訪ねて来たりしやすいように心がけています。娘様と家に帰られ孫様と過ごされたりしています。外出され昔の馴染みの暮らしが継続できるよう家族様と話し支援しています。	利用者にとって大切な方や馴染みの人などの来訪時には、ゆったりと過ごせるように配慮され、また、馴染みの場所への外出についても家族の協力を得ながら、関係が途切れないよう支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアのテーブルを囲みスタッフが中に入り、一緒に歌をうたったり百人一首をしたりしています。洗濯物もたたむ人・仕分ける人とお互いに役割を決めてされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関係は難しいが、契約終了後も炊きだし祭やイベントのお手伝いの協力の意をご家族様に伝えるなどしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや希望の理解に努め、出来る限り本人本位の暮らしが出来るよう検討しています。	日々の言動や意思表示などから、その人の思いを推し測り、それとなく確認するようにされています。また、意思疎通が困難な方は家族からの情報やアセスメントからその人らしく暮らせるように支援しておられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフの担当制で入居時にセンター方式でアセスメントをとり、その人らしい生活の継続に心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の行動や心身の状態をしっかり観察し、職員同士も情報の共有をはかり、しっかり把握できるよう努めています。日中の活動の参加も促し夜間ゆっくり休んでもらえる様、生活リズムも整えています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居されて1週間は昼夜の生活リズムや排泄などをアセスメントし、より解り易いセンター方式の活用もしています。ご本人のニーズに添ったケアプランを家族様に説明し同意でケアを進めています。	本人、家族の要望や意向を確認しながら生活の場としての生きがい・やりがいに沿った介護計画を作成されており、日々モニタリングを行いながらケアサービスに取り組んでおられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に気づきを含めて記入しています。スタッフはまず気づきノート、個別介護記録を見て仕事に入っています。各入居者担当を決めカンファレンスの場で情報の共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や緊急時対応は、ご本人やご家族の希望をふまえ、柔軟に対応している。受診や通院、ドライブ、買い物など必要に応じて支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署には年2回の避難、消防訓練、救急法の講習会、救急車の依頼などの支援してもらい、また地域のイベントで参加出来るような事には積極的に参加し、老人会のふれあいサロンにも招待して頂き参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族様の支援があれば継続していただけるように入居時説明しています。	かかりつけ医の継続を希望される場合は、家族の協力のもと、受診に必要な情報提供を行い、適切な医療支援に努められています。また、看護師とは24時間の連携体制が確保されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算により、訪問看護と連携をとり褥瘡はすぐに相談し、日常の健康管理(排便コントロール、巻き爪)を相談しながら安心できる生活を送れるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの提供や家族様からの情報で今後の方向性や家族様の意向を取り入れ密に連絡をとり支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明でターミナル期でも医療面が問題なければ入居の継続ができると説明する。家族様ごとに希望・思いも添える十分な話し合いの場を持つ。事業所の出来る事を説明し同意書をとりかかりつけ医の連携を図り支援しています。	入居時に終末期の意向を確認し、重度化した場合や終末期には職員への周知・徹底を図りながら、その都度、家族や関係者が相談し、適切に支援をされています。なお、看取りについては過去に経験されており、指針も作成されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の勉強会で年1回救急の勉強会を消防署の協力で行っています。事業所ではマニュアルを作成しカンファレンスで説明し、1階事務所に掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと年に2回避難・消防訓練の実施 避難方法の確認やスタッフの不安を消防署の方と話し合っています。避難時に備えた炊きだし祭の開催、南小学校が避難所であり、施設には水や食料が備蓄してあります。	消防署の協力を得ながら夜間を想定した年2回の避難・消火訓練が実施されており、利用者が無事避難できる方法を、職員が身につけるための話し合いも、消防署指導のもとに行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時に守秘義務について契約書もらっています。ケアカンファレンス時に関わり方や言葉掛けなど話あっています。	一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けやケアを心がけ、守秘義務についても徹底されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定出来る様に言葉掛けしています。献立は利用者様に聞きながら立てたりしています。誕生日会は本人様に食べたい料理を伺い献立をたてています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペース・体調・気持ちに合わせ過ぎて頂くよう支援しています。自分で意思を言えない方は表情・言葉・行動などから読み取り出来るだけ思いに添える様にします。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えをする時には本人が自己決定が出来るよう、意思を確認しながら行っています。外出時にはお洒落したりできるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に合わせ、下準備のお手伝いをしていただいたり、片付けを職員と一緒にしています。	食事が楽しくなるように事業所敷地内で収穫した旬のものや、誕生日には好みのメニューを取り入れるなどの工夫もみられ、また、出来る人には食事の下準備や配膳などを職員と一緒にしながら、同じテーブルを囲んで楽しく食事をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は介護記録に記入していません。食事量を個々によって調整したり栄養面で摂取が少ない方にはチョコ・プリン等も食べて頂いています。水分ゼリー・トロミでその日の状況により対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持が出来るよう、毎食後の歯磨きをして頂いています。自分で出来る方は、自己で出来るような声掛け・支援に心掛けている。歯科衛生士が入っている方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時1週間、排泄パターンをとり誘導時間を決めていきます。1人1人のサインを見逃さないように、排泄パターンが必要な方には介護記録にチェック欄をもうけ失禁を減らす取り組みを行っています。	排泄パターンを記録し一人ひとりの習慣や行動を観察しながら、排泄の自立に向けた支援を行っておられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の対応として必ずヨーグルト・ひじき・牛乳寒天などを取り入れるよう工夫し便秘の予防を行い、また散歩や体操をし身体を動かすよう促し入浴時・トイレでは腹部マッサージを状況に合わせて行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時に日課を聞きゆっくりと入浴してもらるようにしています。月・木曜日は大浴場で他の利用者様と一緒に温泉気分を味わって気分転換出来るように支援しています。また体調によっては清拭・手浴・足湯などで支援もしています。	入浴日や時間帯は決められていますが、希望があれば柔軟に対応できるように支援されています。また、利用者の気分転換を図るために、併設されているデイサービスの大浴場も利用可能となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動し昼夜逆転にならないようにしています。寝つきが悪い時はホットミルク、葛湯などを飲んで頂いたり一緒に話をしたりする事で安心できる環境の中で入眠しやすい環境作りを心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンスで副作用等説明しています。個人ファイルに服用薬品名カードを入れており理解できています。受診後内容が変わったら気づきノートに書いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物希望される方は車で買い物に出たりしています。歌・レク・洗濯たみ等できる事をして頂き、個別の楽しみを(おやつ等)スタッフが手助けしています。また近隣の公園におやつを持って出かけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課で朝夕外気浴をしています。外のベンチに座ってもらい車椅子での散歩も出来るだけ参加して頂けるように支援しています。夏は花火鑑賞に夜に出かける事もあり秋は馬見公園まで遠足、お彼岸の時期になると家族様とお墓参りに行かれる方もおられます。	日常的には周辺の散歩や朝夕の外気浴、体操を行っておられます。また、買い物やドライブのほか、季節ごとの外出機会を計画的に確保し、積極的に支援をされています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が不十分になっている方で、手持ちがないと不安に感じる場合には家族と相談の上で小額の現金を持って頂く様にし又、買い物時の支払いは本人にしてもらえる様対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけてもらっています。年賀状や暑中見舞いは、スタッフが手作りした絵手紙に書いてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾ったり入りやすいようにしています。またオゾン発生器を設置して不快な臭いがないように常に心がけています。家庭的な雰囲気になるようにしています。	館内は明るく開放感と清潔感に溢れ、玄関には季節感のある生け花や広いホールには畳のスペースもあり、飾り付け等を控えながらもシンプルで、家庭的な雰囲気の共用空間が確保されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、居間など好きな場所で過ごせるように移動しやすい環境設定をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様に入居時に家として捉えてなじみのある物を持って来て欲しいと伝えています。写真や置物・タンス・ソファなどが置かれています。話のきっかけや思い出を伺っています。	居室にはベットが備え付けられ、家に居る時と同じ気分で過ごせるように馴染みの物が置かれています。また、洗面台とトイレも設置されており、安心して過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりが壁面やトイレ、浴室についています。居室には表札をつけ必要な方は、おてあらいウォシュレットの順番を書いたりして目印もつけ分りやすいようにしています。		